

支援センターの運営を支えてくださる皆様

～こころより感謝申し上げます～

令和2年7月1日～令和3年1月31日

アイウエオ順(敬称は略させていただきます。)

あいおいニッセイ同和損害保険(株)役員	赤堀 隆治	堀野 江利子	旭化成(株)富士支社
熱川温泉観光協会	熱海警察署	熱海地区安全運転管理協会	井口 登
(株)石井組	石澤 藤七	石原 えつこ	磯部 三恵
(一財)市川交通安全財団	(株)伊藤園静岡相良工場	伊東警友会	伊藤 博
猪之原 勝美	磐田警察署	海野 耕司	S・K建設(株)
大多和 清美	大庭 茂利	大村 裕二	岡野 廣治
長田建設工業(株)	表富士工業団地協同組合	上川 陽子	河合 竜司
川嶋 晃	(株)川島組	川島 達也	汗管興業(株)
菅野 雄児	菊川警察署	栗栖 英俊	湖西警察署
湖西警察署視聴会	湖西地区安全運転管理協会	御殿場警察署	後藤 千代子
澤木 久雄	JA静岡市あさはたまん市	重木 幸子	静岡県警察カレンダー制作委員会
静岡県警察官友の会熱海支部	静岡県警察官友の会磐田地区支部	静岡県警察官友の会湖西支部	静岡県警察官友の会島田支部
静岡県警察官友の会富士宮支部	静岡県警察官友の会水窪支部	(一財)静岡県警察職員互助会	静岡県警察本部警察相談課
静岡県警察本部警備部機動隊	静岡県警察本部少年課	静岡県警察本部薬物銃器対策課	静岡県公営競技連結協議会
静岡県交通安全協会熱海地区支部	静岡県交通安全協会島田地区支部	静岡県交通安全協会沼津地区支部	静岡県交通安全協会藤枝地区支部
静岡県交通安全協会森地区支部	静岡県交通安全協会焼津地区支部	(一社)静岡県歯科医師会	(社)静岡県指定自動車教習所協会
静岡県農協暴力・防犯対策協議会	静岡市自治会連合会	静岡中央警友会	静岡トヨペット(株)&パートナー会社
(株)静岡トヨペットサービス	静岡不動産(株)	静岡南警察署	島田警察署
島田市	島田商工会議所	島田地区警友会	清水警察署
下田警友会	(株)ジュエルソチヤ	昭新紙業(株)	白井 孝一
末木 宏典	鈴木 寛一郎	鈴木 啓嗣	鈴木 敏弘
鈴木 智善	鈴木 雅士	鈴与(株)	裾野ライオンズクラブ
駿府警備保障	セキスイハイム東海(株)	滝澤 聡康	竹田 尚功
田代 稔	横書道会 櫻井流翠	田中 広子	玉川 隆全
中部電機サービス(株)	中部電力(株)静岡支店	土屋 賢太郎	(株)戸田書店
内藤 光雄	南駿農業協同組合	仁科 善世志	沼津警察署
沼津競車遊技場組合	羽田 ひとみ	浜北警察署	浜北警察署管内職域防犯協会
浜北警友会	浜松中央警察署	浜松西警察署	浜松東警察署
原木 英三	平塚 哲也	福地 明人	藤枝遊技業組合
富士岳南ライオンズクラブ	富士警友会	(一財)富士心身リハビリテーション研究所	富士宮警察署
富士宮警友会	富士宮中央ライオンズクラブ	富士宮ライオンズクラブ	(株)富士ホンダ
ホテルグランヒルズ静岡	堀江 きよ	牧之原警友会	増田 享大
松崎警察署少年警察協同員	松下産婦人科医院	松村 龍夫	松本 喜代子
松谷 清	(株)丸川	丸山 博之	三島警友会
(株)水野組	溝口 敦	嶋田 武	望月 俊郎
望月 威男	焼津市遊技業組合	山下 栄	ヤマハ発動機(株)
山本 正子	別冊 健太郎	[犯罪被害者等支援講演会]募金	匿名22件

～被害者と共に考え、共に歩む～

vol.50

支援センターだより

クラウドファンディング実施中!!

静岡犯罪被害者支援センターでは、クラウドファンディング型ふるさと納税サイト「さとふるクラウドファンディング」において、新しい広報啓発活動及び相談事業を展開するための寄付金を募っています。

【クラウドファンディングにより実施を希望する事業】

○CMの制作及び放送⇒オリジナルのCMを制作、放送することで、誰もが知る静岡犯罪被害者支援センターを目指します!

○県内巡回相談⇒お住まいの地域を訪問し、皆さんの相談をお聞きします!



目標金額: 3,000,000円
募集期間: 令和3年9月まで

(3月は基金への積立処理のため、募集が一時休止されます。)

寄付をしていただく方法は、(1)インターネットからの申込、(2)紙の納付書による申込があります。

詳しくは、「さとふるクラウドファンディング」サイトまたは、「静岡市ふるさと応援寄附金事業」サイトを検索してください。

「さとふるクラウドファンディング」サイト



「静岡市ふるさと応援寄附金事業」サイト



被害者の方に「支援センターのことをもっと早く知っていたら、こんなに苦労しなくて済んだのに。」と言われたことがあります。

被害に遭われた方々が更に苦しい状況を強いられることがないように、そして早期に相談機関に辿り着き、必要な支援を受けることができるようにするためにも、これまで以上に広報啓発活動に力を入れ、当センターの活動を広く県民の皆様にご覧いただくとともに、より相談しやすい環境の整備に努めてまいりますので、皆様のご協力をお願いいたします。

《賛助会員・寄付のお願い》

静岡犯罪被害者支援センターの活動は、皆様の寄付金等で支えられています。当支援センターの主な活動として、電話相談、直接的支援、支援員の養成・研修、広報啓発活動等を行っています。被害者支援活動の趣旨にご賛同いただき、ご支援ご協力をお願いいたします。

賛助会費
法人・団体 10,000円以上
個人 2,000円以上

賛助会員の方々には、広報誌「支援センターだより」などをお送りしています。また、被害者支援講演会等のイベントを開催する際には事前にお知らせいたします。

【振込口座】 郵便振替:口座番号 00870-7-50944
【加入者名】 NPO法人静岡犯罪被害者支援センター

ホームページアドレス

<http://www.shizuoka-hhsc.jp>

後援 静岡県警察本部
静岡県犯罪被害者支援連絡協議会



発行 認定NPO法人
静岡犯罪被害者支援センター
〒420-0032
静岡市葵区両替町1-4-15 芙蓉ビル4階
発行月 令和3年 2月

～目次～

- 「さとふる」クラウドファンディング実施中
- 「犯罪被害者等支援講演会inしずおか2020」講演ながらスマホ運転は殺人行為
～あれから1493日も敬太と共に～
講師:則竹 崇智 様
- 島田市「犯罪被害者等支援条例」制定、寄付型自動販売機設置
- 熱海・あたたか学生服・代理人支援協定、ホンデリング寄付報告
- 会費納入者・寄付者ご紹介、寄付のお願い

静岡県公安委員会指定 犯罪被害者等早期援助団体
認定NPO法人(特定非営利活動法人)

静岡犯罪被害者支援センター



電話相談

054-651-1011

受付時間:10時00分～16時00分
(土・日・祝日・年末年始を除く)

犯罪被害者等支援講演会inしずおか2020

「ながらスマホ運転は殺人行為 ～あれから1493日今も敬太と共に～」

講師 のり たけ たか とし
則竹 崇智 氏

【はじめに】

皆さん、こんにちは。只今ご紹介いただきました私、愛知県に在住しております。本職は愛知県立一宮東特別支援学校というところで、体育の教員をしております。今日は職場の方にかなり前からオファーをいただいておりますので、仕事の都合をつけまして、本日こちらにお伺いさせていただきます。

この11月25日から「犯罪被害者週間」というものが始まりましたが、まだまだ正直なかなか浸透していない部分があります。正直私も4年1ヶ月前までは存じ上げなかったというのが現状です。実際に、「交通事故」とよく言われますけれども、交通事故というのは、どちらかというと加害者目線という形なんです。被害に遭った遺族は、ある日突然元気だった家族が、目の前からいなくなる、これは殺人行為に等しい。「事故」と言われるのが、「いやいや、犯罪行為でしょ。」というような思いを持っているご遺族の方は結構多数いらっしゃる。そんな風に思っております。

今日は「犯罪被害者等支援講演会」ということで静岡にお招きいただきまして、静岡県・静岡県警・静岡市・犯罪被害者支援センター等々のご後援で、このような講演会をさせていただくことを誠にありがたく思っております。高い席からではありませんけれども、御礼申し上げます。



私がこの1493日。ちょうど、これでも4年と1ヶ月が経ちました。この静岡でも4年ほど前に大きく取り上げられたのではないかなと思っております。

これは私の家族の写真なんですけれども、私、妻、長男、この子が敬太です。私の両親と6人家族です。

これは2015年、事件に巻き込まれる前年の11月末に、私は家族写真を年賀状で送るんですけれども、名古屋の食器メーカーで「ノリタケ」というところがあります。私、則竹なものですから、毎年この「ノリタケの森」へ行って、則竹の子ども達がどんどん成長していくという、友達にはくだらない冗談を、これは子ども達が中学生、いやいや高校生ぐらいまで何とか続けられるかなと思って始めたら、敬太が小学校3年生の時にそれが終わってしまった。まさか、そんな理由でこんな写真を続けられなくなってしまったのかと、そんな風に思います。

実は、私は結構静岡と言いますが、当地区には縁がありまして、家内が隣の市の焼津の出身ですので、今日も新幹線の車窓から高草山を眺めながら、久しぶりに焼津を眺めながら静岡に来たなど。この地区でもエスパルススタウンですとかいろいろところを回ったなという思いもありますし、長男と敬太は静岡・焼津に行ったら何を食べたいと言ったら、必ず言うのは「さわやか」に行こう。」と言います。「いやいや、魚じゃないのか。」「父ちゃん、「さわやか」だよ。焼津と言ったら「さわやか」だね。」って。「静岡、どこに行ってもあるけどさ。」というぐらい、とにかく「さわやか」行こう、「さわやか」行こうと。私は魚が食べたいのですが、ハンバーグをよく食べていたという思いがあります。

敬太のスライドがあるのでご覧いただければと思います。(敬太君の写真) 24枚、1分30秒。9歳11ヶ月の彼の人生を振り返ると、たったこれだけの写真で振り返ることができてしまう。もっと当たり前のように写真が増えると思って

いました。今の24枚の中にも、1枚だけ「さわやか」でハンバーグを食べている写真が実はありました。本当に写真の中の敬太は当然笑顔ばかりなんですよ。この写真はですね、事件に巻き込まれるちょっと前、2016年8月25日に三重県の伊勢志摩方面に家族でキャンプへ出掛けました。その時に撮った写真1枚なんです。事件に巻き込まれる直前で、一番良い顔をしているこの写真を敬太の遺影にしよう、そういうことを妻と長男と私の三人で決めました。今もこの写真が仏壇の横にはずっと笑顔で見守ってくれています。

事件事故に巻き込まれた現場は、私の家から直線で300mも離れていない、見通しのいい信号機のない横断歩道で起きたんですね。時刻は16時08分。子ども達が集団下校してくる時間だったんです。それまでは本当に何も変わらない、ごくごく普通の当たり前の毎日を送っていました。まさかあんな出来事に自分自身が巻き込まれるなんてこと夢にも思いませんでした。

昨年、愛知県内で中高生向けに作られたDVDがあるのでご覧いただきたい。事件事故の概要も少し入っていますのでご覧いただければと思います。(DVD上映)

昨年度、こちらを作成させていただいて、愛知県内の中学校・高校の各学校に配布されて、交通安全指導に使っていただくための教材ということで作成させていただきました。本当に私の住んでいる愛知県は、昨年こそワースト1ではありませんでしたけれども、一昨年までは16年連続、交通死亡者数が断トツの1位。実は今年も断トツのワースト1ということで、ただこの当県、静岡県の様子をみても、すでに昨年の交通死亡者数に並んでしまった、超えてしまったという現状があるということで、結構、交通事故は身近に起きているんですよ。遺族からすると殺人事件が至るところで起きているということを考えると、やっぱりハンドルを握る我々ドライバーというのは本当に、当然ですけど、ハンドルを握るときは、前方を注視してルールを守って運転する。当たり前のことを当たり前にするということが果たしてできているのかな、どうかな、と。

最近ですと、昨年、池袋での大きな事故事件がありましたよね。奥さんとお嬢さんを亡くされた松永さんという方が懸命に戦っておられる。今、Facebookでもいろいろな「犯罪被害者週間」も第4次基本計画の中にも、犯罪被害者支援をもっと補償をつけてほしいとか、有休制度を認めてほしいとか、そんなことを訴えられておられる懸

命な姿を見るとですね、なかなかお会いしてなんてできない状況ですけども、陰ながら応援をするという。ただ松永さんのこの間の裁判の様子を観てますと、報道ですけども、ブレーキとアクセルの踏み間違えではなく、車が誤作動したんだというあの発言を聞くと、謝っているのか、謝っていないんだか、僕は悪くないとただ言っている言いつけにしか聞こえないですね。「だったら謝らなくて結構だ。」と松永さんがおっしゃられていたのはそのとおりだと思いますね。

私も被害者参加制度を利用して裁判にも出ましたが、やはり裁判に出るということは肉体的にも精神的にも相当な疲労があります。本当に心が折れます。弁護士はとにかく情状酌量を求めてくるので、こちらの非を少しでも、少しでも量刑を軽くしようという作戦に出てきますから本当に心が折れますが、そんないろいろな中で心が折れずにいられるのは、家族の支えがあったからなのかなと。友人の支えがあったからなのかなと思うんですね。松永さんの場合は、奥さんと子どもが本当に家に帰っていないのかなと思うと、本人の心というのは相当なダメージがあるんだろうと、ですから色々な自助グループがあるんだと思うんですけど、私も陰ながらですが応援していきたいと思っています。

もう一つ、この映像「交通事故遺族の声②ながらスマホで失った9歳の息子の命」があるんですけども、警察庁が作られ警察関係者に配られたものなんですけれども、実際に息子・敬太の事故事件を再現したドラマの形であります。これは流すと12分ぐらいありますので、今日は概要を私の方でお話させていただきます。実はこれYouTubeなんかにも上がっておりますので、検索していただければこちらの画像が出てまいりますので、何かの機会があれば観ていただければと思います。



先ほどご紹介で、私2016年の12月に国家公安委員会というところに、大村知事と一宮市長と国家公安委員会に出向いて、松本純国家公安委員長に「ながらスマホの厳罰化」ということをお願いしました。先ほどもありましたが、自動車運転処罰法違反の禁固3年だ、過失運転というところだったので、「ゲームをしながら運転していたのに過失なんですか。」という思いが私の中にあったんですね。被害者も警察でも検察でも事情聴取というのがあるんですね。特に私、検察官にいろいろなことを聞かれたときに、「当然、危険運転をしているんだから、量刑は重いですよ。」と聞いたら、「いやいや、則竹さん。過失運転致死傷罪ですよ。過失ですよ。」と。「過失なんですか。危険じゃないんですか。」と。「危険運転は6項目しかないですよ。スマートフォンやナビゲーションの注視なんて文言はどこにもない。だからこれ過失なんです。」と言われたときにちょっと違和感があったんですよ。いろいろなものにルールを厳しくするというのも必要になってきている、正直。この法律「危険運転致死傷罪」ができたのは2001年ですから、もう19年前。その時にスマートフォンとかそういうものがあつたかというたんですよ。法律というのはどうしても後追い、後追い、後追い。何か事があってから少しずつ変わっていく。だけど少しでも変えていかないと私たちの安心安全というのは守っていけないのではないのかなと、そういう思いがしました。

そして、いろいろな人の助けもあって、いろいろなところ、愛知県議会、これは前の民主党政権時代のときですけれども国会の方へ行ったりだとかして、いろいろな先生方にお会いして、いろいろなことをさせていただきました。やっぱり何かしていないと心が折れてしまうんですよ。そういう思いでいろいろなことをさせていただきました。

【最後の写真】

先程、家族旅行写真の最後の写真ということで1枚ありましたけれども、実際彼が生前、今でも私の心の中に敬太は生きているんですけど、本当に肉体があった最後の写真というのはこの写真なんです。 (登校時の写真投映) この後ろ姿が敬太です。後ろに立っているのが長男です。いつ撮られたかという、事件当日の朝、7時30分。本当はここに女の子が1人立っていました。その女の子のお母さんが、朝集団登校をしますの、あと2人ぐらい来ます。6人ぐらいで小学校まで通うんですけども、我が家

は小学校区でいうと少し離れたところにあります。1.6,7キロあるのかな。それぐらいのところの校区です。朝、ここで集まって、事件現場のところを通過して、小学校まで向かいました。この写真が生前最後の写真となっていました。この写真、ここにいた女の子のお母さんが敬太の四十九日の後に、「後ろ姿なんだけど、敬太君の生前、本当に最後の写真なので。」ということで、妻に写真を持ってきてくれました。まさかこれが最後の写真になっていうことがあるんだって、今でも私は夢だったらいいのになと。

今日も、毎朝私、現場へ行って手を合わせるんですけども、今日も朝5時半ごろに行くと、まだまだ暗い中、ちょっと寒くなってきた道路に手を当てて、「今日は静岡に行くんだよ。『さわやか』は食べてこないけど。」って言いながら、会話をしながら今日ここまで来ました。本当にこれが最後の写真だったんですね。

【事故の一報から…】

先程のVTRの中にもありましたけれども、朝私の方が職場に出掛けるのにちょっと早く出ますので、「行ってきまーす。」と声を掛けたら、2階から長男と敬太が「行ってらっしゃーい。父ちゃん気を付けてね。」と、これが敬太と交わした最後の言葉なんですね。

夕方4時20分頃です。私、校内放送で呼ばれました。「ピンポンパンポン」則竹先生、則竹先生、至急、職員室まで。」職員室まで慌てて戻ると、夕方結構保護者の方からいっぱい電話があるものですから、何か俺やかしたのかなと思いながら行くと、教頭先生が血相を変えて、「則竹さん、則竹さん。どうも息子さん事故に遭われたみたいだから、お母さんに電話をしてあげて。」と言われました。妻も同業者で、小学校で講師をしています。基本、夕方は私の両親が面倒をみてくれていました。

母親に電話をしろということだったので、私も慌てて電話をしました。すると受話器の向こうからは救急車のサイ



レンが聞こえてきました。ピーポーピーポー。「あー崇智。あのね、敬ちゃんが事故に遭った。事故に遭ってしまった。〇〇病院に行くで、〇〇病院に行くで、頼む、早よ来て。頼む。助けてな。」プーと切れました。「いやいや大袈裟だな。大袈裟だな。」と思いながら、内心心臓がバクバク言っていました。「えっ、事故?事故?頭打っちゃった。骨が折れちゃった。いやいや大丈夫だよ。大丈夫、大丈夫。」と自分に言い聞かせるように、貴重品だけ持って、言われた病院まで車で駆けつけることにしました。

しかし、内心バクバクしていました。「大丈夫、大丈夫。」と言いながら車を運転していたんですけども、今でもハタと考えるとその時の記憶って定かではないですよ。やっぱり気持ちがすごく動揺しているとき、焦っているとき、時間にゆとりがないときは、本当に安全な行動が取れるのかな。たぶんあそこの病院だからこの道を通っただろうということなんですよ。

その指定された病院は大病院ですから、駐車場はかなり遠くしか空いていませんでした。その駐車場に停めて、ダッシュで病院まで向かいました。受付に走っていくとちょうど長男と父親が待合室に入っていく姿が見えたので、追っかけ待合室に入っていました。

すると待合室の奥では、救急車で先に母親が来ていたので、奥の待合室のソファで座っていました。一番手前にいたので長男に、パッと目が合ったので、私長男にいろいろ聞いてしまったんですね。「敬太は飛び出したのか?」飛び出したのかという問い掛けには、「うんうん。」と。「相手の車はどういう状況なんだ?どうなってるんだ?」と、そんなことを矢継ぎ早に聞いてしまったんですね。そのときは私もどういう状況が分からなかったの、とにかく状況を知らなかった。だけど長男に、目の前で事故を間近で見て、たかだか20分も経っていない状況の小学校6年生の男の子にこんなことを聞いたって、冷静に考えればそれは分かるんですけども、私も状況が分からなかったの、とにかく長男に聞いてしまったんですね。ずっつと下を向いて黙っていました。彼の中ではとんでもないことになっているとよく理解できていたと思うんですね。

救急車に母親が乗っていたので母親に聞きました。「敬ちゃんね、敬ちゃんね、救急車に乗っている途中で心臓が止まっちゃたんだよね。だけど今、電気ショックでビクッ。今は息をしている。心臓は動いている。」と母親も言いながら震えていました。「えらいことになっちゃったな。とん

でもないことになっちゃったのかな。えっ、ウソ、ウソ、ウソ。えっ、何々、どういこと。骨が折れるとか頭を打っちゃうとかそんなことじゃない。心肺停止?生死をさまよってる?ウソ、そんなことないよ。ありえないよ。ウソ、ウソ、ウソ。」と。でも状況が分かりませんので、とにかく長男や父親、母親に「大丈夫だよ、絶対大丈夫だよ。」って自分に言い聞かせるように家族に言って、とにかく状況が分かるまで待合室で待つしかなかったんですね。

するとほどなくして、妻が駆け付けてきました。妻は家に帰るといはずの子どもも両親もいない。玄関にこの靴だけ、片一方だけがボツンと置いてあるだけだったそうです。ちょうどあのときに履いていた靴なんですけれども。「えっ。」嫌な予感がした妻はスマホを見たそうなんですけど、すると母親からの着信と知らない番号からの着信と留守番電話のメッセージ。「〇〇病院です。息さんが事故に遭われました。一度ご連絡ください。」病院へ電話をして、折り返すと、「息子さん、事故に遭われて、今処置をしております。慌てずに病院まで来てください。」ということだったので、妻は病院に駆けつけてくることができました。

妻も待合室に入ってきて、私の顔を見ると私に、私が長男に聞いたことと同じようなことを聞いてくるんですよ。「敬太は飛び出したの?」我々夫婦も、常日頃交通ルールやいろいろなことを守るように話をし、育ててきたつもりではあったんですけども、よもや飛び出しちゃったのかなという思いがあったんですね。「いやいや飛び出してはない。どういう状況なの?どうなっているの?相手の車は?」母親に聞いたことをそのまま妻に伝えました。「どうも救急車の中で、心肺停止になって、AEDで今は自発呼吸もあるし、心臓も動いているみたいだけれども、ICUで集中治療。」そういうと妻は、妻は本当に膝からガクッと崩れ落ちるように、ガクッとへなへなへな。しばらくして出た一言が、「ごめん、敬君。ごめん。お母さん早く帰ってくればよかった。ごめん。ごめんね。」と妻はずっと自分のことばかり責めていました。「いやいや、君が早く帰ってきたからと言って事故に遭わなかったなんていうことはないんだよ。」妻はたまたまその口遅かったんですよ。普段ならその時間16時には家に帰っていたのに、たまたまその日は遅かった。だから自分のことをすごく責めていました。「いやいや、でも大丈夫だよ、敬太は。絶対助かるから大丈夫なんだよ。」と何の根拠もない。家族全員でとにかく待合室

で待つしかなかった。

敬太が搬送されて、40分経っても50分経っても誰も出てきてくれない。何の説明もない。本当にその間の約1時間が本当に5時間にも10時間にも感じて、長〜い時間でした。時折、長男は歩き出しては、握りこぶしを叩き、「敬〜太。敬〜太。」そんなことを言いながら待っていました。

敬太が搬送されて50分ぐらいして、ようやくドクターが出てきました。「息子さん、今、ちょっと小康状態になりました。なんとか緊急でオペがしたい。」ということで承諾をしにいらっしやっただのと、「小康状態なので、お父さん、お母さん、ICUの方へちょっと。」ということでICUの中に入れてもらったんですけども、小康状態という話でしたので、ちょっと良い状況があるのかなと思って行ったのですが、入っていくとまるでドラマみたいな感じ。奥からアラーム音が聞こえてきました。ピ、ピ、ピ、ピ、ピと聞こえてきました。ハッと見ると、敬太の上に馬乗りになって心臓マッサージをしているお医者さんがいました。慌てて私は敬太のところへ駆け寄り、「おーい。敬太、敬太、敬太、敬太。」パッと見たときの敬太の眼はもう瞳孔が開いていました。「えっ、ウソでしょ。えっ、これって現実なの。」妻は本当に腰が抜けてしまった状況でしたので、看護師に慌ててまた待合室に戻るようと言われて、抱えるようにして戻っていききました。

本当に妻は声にならないような声で、潰れるように下を向いていました。私ができることはとにかく家族を励ますことだけ。私も本当に現実が、何が現実で、何が夢なのか。何が夢で、何が現実か。本当に頭の中がパニックになっていました。頭の中では、「これ夢だよ。夢。悪い夢を見てる。見てる。見てる。パッと目が覚めたら、父ちゃん、父ちゃんって言って、敬太はひょっこり起きてくる。そうじゃないとおかしいよね。」と思う自分と、もう半分は、今見た自分の息子の様子、「死んじゃうじゃん。どうしよう。」すっごい頭の中でぐちゃぐちゃになっていました。とにかく「大丈夫だ。」としか家族には言えなかったです。

そして、待合室に戻されてほどなくすると、15分ぐらいすると警察官2人が待合室へやってきました。「これ息子さんの持ち物で間違いないでしょうか。」ということで、ランドセル、この反対側のベルトは切れてしまっていました。こちら側もピーッと切れていました。メガネ、水筒、黄色い帽子、巾着袋、コップ、歯ブラシ、片一方の靴。「これは息子さんの持ち物で間違いないでしょうか。」ということで警察

官2人来たんですね。「はい、間違いないです。」警察官が来て、思わず最初に聞いたのは、「うちの子は、どうい状況で轢かれてしまったんでしょうか?」と聞いたんですけども、「今、現場検証しています。とにかく現場の荷物の確認をしてほしい。」ということでしたので、そのときは何も思わなかったんですけども、靴が片一方だけだったんですね。当然、ICUの中にあるんだろうとか、そんなところまで頭が及んでおりませんでしたけども、とにかくこの中の物から長男は水筒を手にとるんですけども、水筒を手にとって一生懸命力を込めて、ギュッと握りしめていました。



これは後に裁判だとか、警察での事情聴取のときとかで若干教えてもらいましたが、裁判の中ではっきりしてきました。防犯カメラの映像ですとか、ドライブレコーダーの映像やいろいろな子ども達や現場にいた対向車の方の証言などもありました。私も警察の方で、防犯カメラの連続写真をパッといろいろ見せてもらいました。「見ますか?」と言われたので。妻は「絶対に嫌です。」私は見ましたけど、さあ今から息子が轢かれますという映像を見るというのは、本当に裁判の前に一度見させてもらって、もう一度後にも見ましたけれども、本当に万が一、時間を戻せるなら、あの場に行って、息子を止めてやりたかったなという思いが本当に今でもしてますし、なんで数秒でも一秒でもいいから違わなかったかなと、いろんな思いがありますけれども、私はその写真の映像だけなんです。長男はそれをずっと目の当たりに見てたかと思うと、本当にやるせない思いなんです。

【事故…そして最期の別れ】

10月26日、午後4時08分。秋晴れのとてもいい天気でした。写真のように敬太は水筒をかけて、ランドセルを背負って、横断歩道までやってきました。こちらから向こうへ渡るという形。トラックは皆さんの席の方からやってくると

いう形です。

横断歩道のところに止まって、そのときは小学校4年生の敬太、5年生のもう二人。あとは6年生の長男と友達5人がその横断歩道を渡るの、横断歩道付近にいたそうです。敬太が一番先頭に立っていました。ちょっとその前にお兄ちゃんとどっちが先に家に帰れるかということをやっていたそうなんです。ハロウィーンのちょっと前でした。

横断歩道で待っていた敬太達。ちょうど目の前に、横断歩道に着いたとき、パッと反対車線を見ると白いトラックが40mぐらい向こうに見えたそうです。目の前をスッと軽のワゴン車が通っていった。本当はそこでもう一度そのトラックが止まってもらうか確認してから渡るというのが本来なんですけれども、そこはやっぱりうちの子にも非があったところはあると思うところなんですけれども、目の前を通り過ぎたからパパパッと渡り始めました。そうすると5年生の子たちも渡り始めようとして、敬太は半分ぐらいまで行ったときに、どうもそのトラック運転手は全然減速をしない。6年生の長男と友達がこれはおかしいなと思って声を掛けたそうなんです。「おーい、敬太。トラック来ているから危ないぞ。下がれ、下がれ。」その声が聞こえていたのか、聞こえていなかったのか。今となっては定かではないんですが、「行こう。」と思ったんです。

そうするとトラックの運転手は、職業ドライバーではないんですけども、建築会社の社員でした。建築会社の社員は、ちょうど私が住んでいる愛知県一宮市という岐阜市との境なんですね。岐阜の現場を終えて、もう一つ愛知県の違う現場に行く。事務所に戻って資材を積み替えてその現場に通るかかったそうです。加害者は、2016年7月から「ポケモンGO」が日本国内で配信されてから、営業トラックを運転しているときは必ずソケットで電源を取って、ゲームを起動させて、距離を稼いで、ずっと遊んでいたそうです。その日も普段どおり遊んでいたそうです。そのトラックの運転手は38mぐらいのところまで子ども達が横断歩道にいるのは確認していた。だけど渡って来ないだろうと思っていて、そのままゲームをしていたそうです。その横断歩道の6m手前にポケモンストップがありまして、16時ぐらいに何かレアなポケモンが出ていて、一生懸命操作していたそうなんです。子ども達は渡っていました。そのトラックの運転手はハッと気づいたのは2.9m手前だったということになっています。供述にあるのは、敬太はちょうど小走りで行ったんでしょうね。2t車なので、ちょうど水筒のどこ

ろにドンとぶつかりました。衝突した時の速度は、警察の実況見分の結果からすると35キロぐらいだったそうです。なので、跳ね飛ばされるというよりは、ランドセルとか重たいのでそのままドンとぶつかって、そのまま2t車の前輪で、前輪の下の車底部に引きずり込まれるようにして、13mほど酒屋の角の自販機のところまで引きずられてきました。そのときに横断歩道のところで片一方だけ靴が脱げました。13m先の自販機の前まで行きました。引きずられて敬太を乗上げるような形でトラックが停まりました。

長男はその様子を見ていて、「敬太〜バカ、死ぬな。」と言って、この靴を持って敬太のところまで駆け寄って行ったそうです。すると、その衝突音を聞いて対向車の人がすぐ119番と110番、角の酒屋のご夫婦も出てきて、すぐに敬太の救護に駆けつけてくれたそうです。子ども達も駆け寄って来ました。うちの長男の顔を見たので、「おじいちゃんとおばあちゃんを呼んでいらっしやい。」というので、うちの長男はこの靴を握りしめて家まで猛ダッシュ。その6年生の友達も一緒に付いてきてくれました。長男が玄関にボンと放り投げて、「じいちゃん、ばあちゃん、大変だ。敬太が事故に遭った。事故に遭った。事故に遭った。事故に遭った。」と。だから片一方だけ家に帰ってきた。そして現場に戻って、母親が救急車で、長男と父親・(敬太の)じいちゃんが近所の人に車で送ってもらって病院まで来た。

長男はその一部始終を見ていました。その後に私が色んな質問をしました。お巡りさんがそのときの現場にあった物を持ってきてくれて、長男は水筒を、この水筒、脇腹にピタッと合うんですね。お茶が3分の1ほど入っていましたが、圧力で開けようとしても中々開かないぐらい。長男はこれをずっと握りしめていました。握ってこんな風に声を掛けていました。

「父ちゃん、敬太の水筒が壊れちゃったんだよ。元に戻してやらないと使えないから。父ちゃん、敬太の水筒が壊れちゃった。」

とギュッと水筒を握りしめていました。当然、戻るわけはない。戻るわけはないことは彼も当然分かっていたんですけども、この水筒を直してやって何とか弟の命も救ってやりたいという思いで取った行動なんじゃないのかなと。

とにかく長男が一番現場を見ていましたので、命の危機が迫っているというのは長男が一番分かっていたと思うんです。ずっと真っ赤な顔してギュッとしていたので、私にできることは何ができるかという、長男を抱きしめて、

「そうだな。敬太お茶ないと困るもんな。水筒元に戻してやろう。大丈夫だよ。父ちゃんが戻してやる。大丈夫。大丈夫。」もう抱きしめてやる。声を掛けてやることしかできませんでした。

しかし、状況がさっぱり分からないまま。そして、お巡りさんお二方が待合室を退席されて、10分ほどするとまたドクターが現れました。神妙な面持ちで、「お父さん、お母さん、どうぞ。息子さんの今お腹の中は血液に満たされて何とか血圧が保たれています。ただ一度メスを入れると血が止まらなくて、手の施しようがありません。」と言われました。「いや、先生。さっき手術してくれるって言ったじゃないですか。」とお腹の中で思いながら、「とにかく先生、何とかしてください。お願いします。お願いします。お願いします。」すがりつくようにお願いしました。「お父さん、息子さんの肝臓はほぼ破裂したような状況です。」と言われました。「肝臓なんて、私の半分をあげたっていい。何だったら私の肝臓と代えてあげたっていい。とにかく先生、息子の命を救ってください。」そんな思いで、「お願いします。お願いします。とにかく先生、息子の命を救ってください。お願いします。」すると、後ろにいた私の父親も一言。「先生、私は78歳で、9歳の孫が死んで、なんで私が生きとらんか。先生、孫の命と代えたってええで。先生、何とか孫を救ったってください。」という父親のそんな思いを言いました。私も諦めることなんかできません。「お願いします。お願いします。」今でもあのときの光景が脳裏に焼き付いていますけれど、最後に言われた一言が、本当にぐさりと刺さるような一言を言われました。「お父さん、傷を増やすだけですよ。」「いやいやそれでも、とにかく何とか生きていてほしい。とにかく何とか一命を取り留めてほしい。とにかく命だけでも繋いでほしい。」そういう思いで、「先生、お願いします。お願いします。」と長い間ドクターにお願いをしたような気もしますが、最後にひょいっと背中を引っ張ったのがうちの父親でした。「悔しいな。悔しいな。」と言いながら。

最後は全員でICUに入って、敬太の生きる力を信じる、それしかなかった。右手を私。左手を妻。両足を母親。私の後ろに父親と長男が控えて、みんなでICUに入って敬太に声を掛けました。おでこやこめかみ、後頭部にも傷はあったんですが、きれいに処置されていました。呼吸器のマスクは付けていました。心電図も付けていました。心電図の針もピコッ、ピコッ、ピコッ、ピコッ。寝ているようでし

た。「おーい。敬太、敬太。起きろ、起きろ。父ちゃんだぞ。」やっぱり起きてくれません。妻は本当に左手を握りながら、声にならない声で、「敬くん、敬くん。ごめんね。」両足をさすりながら母親も「痛かったな。怖かったね、敬ちゃん。」脇腹にはタイヤ跡が残っていました。父親も「おーい。敬ちゃん、起きろ。起きろ。起きてくれ。」長男は天井に向かって「敬太ー。」みんなで声を掛けました。何とか敬太が生きて帰って来てくれないか。目を開けてくれないかな。みんなで祈って、声掛けて。

我々が家族全員5人で敬太に声掛けて15分ほどしたら、18時06分です。心電図の波形がピーッとフラットになりました。出血性ショック。9歳と11ヶ月で彼は天国へ逝ってしまいました。事故発生、事件発生から約2時間。しかも、その病院は彼が産まれてきた病院で、彼は一人で逝ってしまいました。「なんでだろう。どうしてだろう。」その時も夢か現実かさっぱり分からない、そんな状況でした。「ご臨終です。」と言われても、「えっ、なに、なに、なに。」

30分ほどしてですね、看護師が家に連れて帰る着る服がないと。処置のために全部ビリビリですし、「病院の病院着で帰らせるのは可哀想なので、お家から服を持ってきてくれませんか。」ということなので、妻はとても運転できる状況ではありませんでしたので、私と長男で家に帰ることにしました。私もとにかく涙を振り払って、「よし分かった。父ちゃんと一緒に行って、敬太が好きだったお洋服とかとってきてやろうな。」と言いながら、家まで15分ぐらいの道のりを運転していました。行く道すがら長男はずっと車窓を眺めながら何も語りませんでした。敬太が亡くなってからずっと1時間ぐらい何もしゃべらなかつたです。

家に帰りました。子ども部屋は2階です。トントントンと上がって行って、長男の部屋と敬太の部屋は同じ、ベッドと遊ぶ部屋があって、クローゼットからパンツやズボンやシャツやトレーナーや「これと、これと、これと、これと、これが父ちゃん、敬太が好きなお気に入りの洋服だよ。」それを



持って、「さあ、行こうか。」とバツと横を見ると、朝、脱ぎ捨ててあったパジャマ。朝、長男と遊んでいたオモチャがそこに散乱していました。

ハッと眺めながら「みんな待っているから行こう。」病院に向かっている最中に、長男が私に向かって語った言葉は、私は今でも頭の中に残っているんですけども、

「父ちゃん。敬太は何でも一番乗りするのが大好きだったから、天国まで一番乗りしちやったね。」

ポロポロポロと泣きながら語っていたあのときの長男の顔と声を思い出すと、本当にやるせない思いがしてなりません。一番の被害者は敬太ですけども、その現場を見ていた長男、その他の友達はいわゆるPTSDですよね。長男は、「どうしてあのとき俺は敬太を止めてやれなかったのかな。」「何で、あそこで行こうとしたのを止めてやれなかったのかな。」「何で学校を出る時間が30秒、いやいや10秒、いや5秒、もっと学校で遊んでやればよかったんじゃないか。」とかいろんな思いがきつと彼の中にはあると思うんですね。そんな小学校6年生、12歳の男の子がすごい重い十字架を背負っちゃったなと思うと、本当にこれからどうやって育てていったらいいんだろう。

ただ長男はやっぱり彼なりに気丈に振る舞うんですね。葬儀のときにもずっと会葬者が何百人も来てくれましたけれども、ずっと頭を下げながら。

葬儀のときにも私は詫言しましたが、「ごめんな。父ちゃん、敬太のことをいろいろ聞いちゃってごめんな。」葬儀のときにも言ってきましたけれども、「なんで父ちゃん、あそこに信号機がなかったんだらうね。」「なんであの人はブレーキを踏んでくれなかったんだらうね。」「なんであの人はスマホなんかでずっとゲームなんかしていたんだらうね。」時折、ボソッ、ボソッという一言が本当にそのとおりのことばかり言っていました。「そうだよな。本当にそうだよな。」そういう思いがあったので、私も居ても立っても居られず、色々なところに行って、色々な行動を起こしたということにもなったんです。

【記者との出会い】

病院から家に連れて帰ってですね、本当にずーっと夜通し敬太が産まれたときにはフィルムのカメラで撮ったなんというのは1本か2本ぐらいしかないんですね。あとはデジカメですから。あとはSDとかハードディスクに全部写真や動画がありますから、本当にさっき24枚と言いましたけ

れども、たぶん1,000枚、1,500枚。とにかくダーッとありますから、2,000枚ぐらいありました。夜通しずっと見ていました。画面の中の敬太は笑顔なんです。ここで横たわっている敬太はずっと寝ているんです。起きるかなと触ると、もう体は冷たい。「あ〜、これが現実なんだ。」と思いながら一晩過ごし、次の日警察に行くことになっていましたから警察に行くと、加害者はずっと「ポケモンGO」をしていて、前を見ずに轢いてしまったと供述したので、いわゆるプレス発表しますよということでした。新聞、マスコミにこういうことがありましたと報道へ発表しますと。

するとその日の夕方、翌日の27日の夕方、とある新聞記者がやってきました。ピンポン。「息子さんの事故のことについてお話を聞かせてもらえないでしょうか。」「憎いです。悔しいです。殺してやりたいです。以上です。これ以上話すことはないですから帰ってください。」と。その新聞記者の人はこう続けるんですね。

「これだけ『ポケモンGO』が危ない、危ない、危ない、危ないと言われていた中で、徳島で一番最初の女性が二人撥ねられて、70代の女性が亡くなりました。その次、残念ですけど同じ愛知県内の春日井市というところで外国人女性が撥ねられて亡くなりました。(その次はうちの敬太の事故事件だったんですね。本当はその間に京都で一つあったみたいなんで、それは執行猶予が付きましてけれども)これだけ続けてある。高齢の方やこんな小さな子。それも不条理な死。こんなことが本当に私の中で許せない。とにかくお話だけ。本当にちょっとだけでもいいので聞かせてもらえないですか。」というその熱意に負けて、家に上げて、敬太の写真と亡骸を見ながらいろいろな話をしていたんですね。すると私も、教員という立場もあるし、「自分が思っていることって自分で言葉にして相手に伝えないと伝わらないんだよ。」ってことを言っていたんですね。ずっと自分の生徒にも、自分の子どもにも、いろんなことをしゃべっている内にハッと思い出したんですね。「あっ、このまま私何も言わなかったら、愛知県版のこの小さな新聞記事の片隅で、『小学校4年生の男の子、撥ねられて死亡』これで終わってしまうのか。また同じことが繰り返されるんだらうな。」30分、40分、小1時間しゃべりましたかね。そうすると、どんどんどんどん私の中で「これはやっぱり、ちゃんと自分の想いを自分の、今は結構SNSで発信される方が多いんですが、ちょうど新聞というマスメディアが来た。それにちゃんと報じてもらうということも必

要なんだろうな。」と思ってですね、この写真を一枚お渡しして、新聞報道することを承諾しました。県内の地元紙始め、全国誌にもいろいろこうやってこの写真が使われるようになりました。これはマスコミが付けた『ポケGO』というのは、私の中の代名詞にもなっているところもあるんですね。



いろいろなところ、当然運営しているナイアンティック社というところがありますので、そこにも、このときは速度をいくら超過しても「運転手ではありません」というのを解除すれば、40キロでも50キロでも操作できちゃうというのがあったので、その機能を解除してくださいという要望の手紙を出したら、途端に私は「ポケモンGO」ユーザーから攻撃に遭うんですね。「被害者だからって、何を言ってもいいと思うなよ。」とか「このオヤジ、連日テレビや新聞に出やがって、同情にも値しない。」だとか書かれたみたいなんですね。私は全然見ないので、私の友人が見て本当に腹立たしいと言っていたんですけど、「じゃあ、見なければいいじゃん。」と言ったんですけど。

今本当にそういうこと、自分の思いを伝えようと思うと、それに対して誹謗中傷が本当に飛び交う世の中ですね。特にこれ（スマホ）。実名を出さなくても良くなってこくなる

と、みんなすごい相手を傷つけるようなことばかりやってくる。「じゃあ、自分がその立場になった時に本当にあなたが今書いていることを言えますか。」ということまで考えて発信できているのかなと思ったんですけども、とにかく、自分の思いは伝えないと。なので、今日も会場に来ていただいている皆さん、WEBで視ていただいている皆さん。そういった方々に一つ一つの事故・事件にはこういうことが、裏があるんだよということを考えていただきたい。そういう思いがあったんですね。なので長男にも言いました。

「嫌な時は嫌って言おう。泣きたいときには泣けばいい。休みたいときには休めばいいんだよ。」でも長男は葬儀が終わって、一日を過ぎたら、「僕、学校へ行く。学校へ行く。」というんですね。「いや、もう一日休めよ。」と言って、二日だけ休ませたんですけども、「僕はケガをしているわけでも、病気をしているわけでもないから学校へ行く。」って言って行くんですけども、彼の中ではきっと、家にいると敬太のことばかり思い出してしまうところと、お父さんやお母さんに迷惑かけちゃいけないんだなという思いがあったので行ったと思うんですね。敬太の最後の写真をくれたお母さんが教えてくれました。その女の子が言っていたんですけど、あの現場を通らないと登下校できないんですね。長男はそこに行くとき花が手向けてあったりするので、「そこを通る時だけグッと顔を背けながら足早に歩いていくなよ。」というのを聞いたときに、本当に長男に「嫌なら嫌って言っていいんだぞ。無理しないでいいんだよ。」ってことを言いました。で、そう言ったときに本当に親身になって対応してくれたのは、サポートセンターの方ですとか、県警のサポート、心理的なカウンセリングですとか、いろいろなところがあります。そういったところというのが我々は助かったなど。

あとは、マスコミ関係もいろいろなところがあるんですね。そういったところというのはやっぱり県警のところの被害者支援というところもしていただけた部分もありますが、ただ、自分の思いというのは自分の言葉で相手に伝えるということだけは、今でも私はそれが必要なことだと思っていますし、そのコミュニケーションが今できていないから余計にこれ（スマホ）ばかりに走っていくんじゃないのかなという思いがしているんですね。

現況、交通事故ということ踏まえるとどうかということですね、昨年、全国で3,215人の方が亡くなっています。これは統計がある中で一番少ない数なんですね。昨年、

静岡県内では101人。静岡県は昨年ワースト10位ぐらいの順位ですよ。ということは、決して少なくない数ということですよ。どちらかというと多い方な県だということですよ。各県ありますけれども、『名古屋走り』というのがありますけれども、静岡の独特のルールで走っているだとかご当地ルールみたいなものがあるみたいですけど。一日に計算すると約9人の方が亡くなって、2時間42分に一人が亡くなっているという状況なんですね。これが決して少ないのかと言われるのでしょうか。3,215人の被害者がいるというか、3,215人の家族がいる。遺族の家族がいる。友人、知人がいるということ。3,215人×10、20の人が被害に遭って苦しんでいる。事故だと言われても加害者の人も99%の人が殺してやろうと思って運転している人はいない。中には1%ぐらいいますけど。ほぼほぼ、たまたま加害者になってしまうということがある。加害者の家族も地方、田舎へ行けば行くほどコミュニティが狭いので、「あそこのお父さんは、この間交通事故で歩いている人を殺したらしいよ。」ひそひそ話、ひそひそ話。そうすると誹謗中傷というのが、地域にいらなくなったりだとか、加害者も加害者の家族も被害者になるということを考えると、果たして交通事故で誰か得する人、幸せになる人っているかっていうと、誰一人としていないわけですよ。そう思ったら交通事故というのは基本的にはルールを守って、よく現認すれば防げるもの。ほぼほぼ減らしていけるものだという風に思うんですね。



今本当に第3波と言われているコロナウイルスは目に見えないし、一生懸命手洗い、消毒、いろいろなことをしても人が動けば、会食すれば、スーパーコンピューターでは分かるけれど、それ以外は見えないわけだから、見えない敵との戦いは分からない。現状、すごくコロナウイルスで亡くなった方は増えていますが、昨日時点で2,014人の方が亡くなっていますね。交通事故ってそれに匹敵するぐらいですけども、交通事故の方が断然に多いんですね。と思えば、交通死亡事故自体は減っているんだけど、それでも今言われているコロナウイルスで亡くなっている方より多いんだよという現状をみたら、やっぱりこれから

何かと年末にかけて交通事故が増えてきますから、あと1ヶ月、何とかこれ以上増やさないために皆さんどうしたらいいんだらうかということも考えると、今現況、こんな感じなんですよ。愛知が断トツなんですけれども、実は静岡もひたひたと昨年に追っついていまして、これから本当に夕暮れが早くなって、交通事故が起きやすくなってきてしまいます。十分気を付けましょうということですよ。静岡県内でいうと、一日89人。昨年のデータでいうと、16分ぐらいに1人ぐらい何らかの交通事故でケガをしているというデータがあるかと思うと、今私がこうやってお話をしている間にも4人ぐらいの方がどこかでケガをしているということなんですよ。それぐらい交通事故って身近にあるということ肝に銘じて我々は運転をしなければならない。

ながらスマホが起因する事故は2019年2,645件あって、内、死亡件数は42件あって、重症者数は188人いました。これは10年前に比べると1.5倍ぐらいの数で増えています。交通事故自体は減っている、交通死亡事故自体は減っているんだけど、こういうことがあったので、ながらスマホ運転の厳罰化ということにも国が動いたのではないのかな。

私はながらスマホ運転というのは殺人行為に等しく、未必の故意。私は故意犯だと思います。過失ではない。故意ですよ。スマホは色々な情報が来ますけれど、手元にあるからつい見たくなる。たかだか30分、長くても1時間にどうしても取らなくてはいけない情報がそんなにあるのでしょうか。ナビゲーションの代わりにしているのなら、ちゃんと固定して使えばいい。それだけのことなのではないのでしょうか。でも最近また、私が通勤路で見ていると、停車するとスマホを触って、そのまま今の車は賢いので、「車が動いたよ」とピーッと教えてくれますから、そのままスマホを2、3秒見ながら運転して行くというドライバーの方は正直まだまだたくさんいるんじゃないのかな。そういうところで接触事故というのは起きてくるんですね。人間、高速ではそういうことはしません。低速のときに結構起きる。30キロ以下ぐらいですとか。で、軽微な。

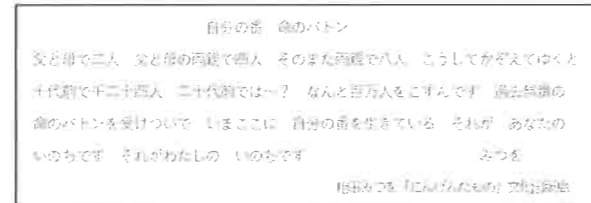
今はただ事故を起こさずと違反点数増えましたよということなので、それですべて解決したとは思っていませんけど、我々の行動はスマホに使われてはいけません。スマホは便利な道具として使わないと、今我々大人もそうですけれども、どんどんどんどんスマホに使われてはいけません。スマホ便利です。いつでも、どこでも、どんな時でも使



えます。だけど、一つ間違えると手のひらの凶器にも変わる。ながらスマホ運転をすれば当然。携帯も傷つけますけど、さっき言った誹謗中傷。今、中高生の生徒指導事案で何が言ったら、万引きがあったり、暴力だったりというのはほぼほぼないですね。このスマホがらみです。誹謗中傷、仲間はずれ、グループLINEを外したり、既読スルーしたりとか。誹謗中傷ですよ。残念ですけど、そういう世の中になってきちゃっているのかな。[指殺人]という言葉もコロナ禍で言われました。女子プロレスラーの木村花さんという方が亡くなったり、韓国の方でも指殺人ということでアイドルかなんかが何十人も自殺したってニュースがありますけれども。本当に直接的な原因でないとしても、間接的にみんなで段々々と一人を追いやっていくという状況があるという。本当にスマホって使い方。寝ている間以外はずっと使っているという人が結構いるんじゃないのかなと思いますよね。ただ、スマホに書かれている情報も正しいのかどうか。あと子どもが、誰がどんな人とつながっているのか知っているのかというと正直分からないですね。全世界と知り合ってしまうかと思うと、今本当に誘拐みたいな感じで、「家出少女募集」みたいな感じでいろいろな所へ行っちゃうし、うちの生徒でもそうですが、軽度の知的障害の子でもFacebookで知り合った隣の県の三重県で知り合った男性に会いに行くとか、「なんで、だめだ だめだ。」っていうんだけど、「先生なんか私信じられない。私が信じられるのはこの人だけ。」見たことも会ったこともない、成りすましていないかもしれないという人を、本当に真剣に信じてしまうというところは恐ろしいなと思います。

【最後に】

教員をしているということもあるので、私は相田みつをさんの詩をよく使っていたんですね。授業で9月は自殺予防ということもあるので。そのときに感じたものと敬太が亡くなって感じたものとちょっと感覚が変わったんですけど、「自分の番 命のバトン」。



私がこうして皆さんの前でお話をさせていただいて、私が産まれてきて、妻と結婚して、長男と敬太が産まれたのも、両親が結婚して私を産んでくれたからですね。その私の両親をそれぞれ産んでくれた父方の両親。じいちゃん、ばあちゃん。母方の両親、じいちゃん、ばあちゃん。その父方のじいちゃん、ばあちゃんを産んでくれたじいちゃん、ばあちゃん。私から言うとひいじいちゃん、ひいばあちゃん。母方のひいじいちゃん、ひいばあちゃん。そうやってずっと数えていくと1,024人がずっとその代々、代々、ずっと結婚して子孫繁栄させてずっと来ているから今の私がいて、子ども達が産まれたと。そう思うと、私のおじいさんが戦争で亡くなっていて、親父が産まれていなかったら私は産まれていないわけで、私の命というのは私のものだけど、私だけのものではないんだよってことは常に言っています。だから私の命をどう使っていくかは、産まれたからには自分の人生全うしましょうよ。残念だけど人間は必ずいつか死んでしまいます。今どんなに頑張っても120年ぐらいのかなって言うところですけども、どうやって生きていくのかなという風に子ども達に伝えています。

しんどいこと辛いことがあります。そんな時にこの新美南吉という愛知県の「ごんぎつね」という物語を書いた人なんですね。この人が昭和10年に書いた「でんでんむしの悲しみ」。上皇后美智子さまが色々朗読をされていたのを見てハッと。私も地元愛知なので、この詩は知っていたんですけども、私は敬太が亡くなったときはこの世の一番の悲しい家族はうちだけだと思っていたんですけども、ちょっと経った時にこの詩を見てハッとしたんですけど、目線が上がったんですね。とあるでんでんむしが悲しみがいっぱい生きていられないと思って、違うでんでんむし

に聞くと、「いやいや悲しいのは君だけじゃないよ。僕だって悲しいんだよ。」じゃあしょうがないなと思って、また違うでんでんむしに聞くと、「苦しいのはあなただけじゃない。僕だって苦しいだよ。」とずっと何人かに聞いていくと、「悲しみは、誰でも持っているのだ。わたしばかりではないのだ。わたしは、わたしの悲しみをこらえて行かなきゃならない。」そして、このでんでんむしは嘆くのをやめたのであります。と。悲しい、苦しいのは僕だけじゃない、うちの家族だけだと思っていたけれど、パッと周りを見ると本当にいろいろなことで苦しんでいる、悲しんでいる。家族が病気で苦しんでいる、介護で苦しんでいる。いろいろな悩みや苦しみをみんな抱えているんだけれども、ちゃんと前を向いて生活をしているんだと思う。じゃあ、私にできることは何だろうと。教員として子ども達を育てること。そして、こういう事故・事件に巻き込まれることを無くしていくこと、減らしていくこと、そういうことで活動してできることが私に何かないのかなと。伝えることは、話していくこと、そういうことが私にできることなので、今までに先程もあった130箇所。今年も併せると150箇所以上。コロナ禍だったので最初は全然なかったのですが、9月10日とポンポンと、この先どうなるか分かりませんが、伝えるということが私の中で必要なことだと思っています。

その中で、やっぱり弱音や愚痴を「吐」くんです。これは子ども達によく言っているんですけども、- (マイナス)の部分削っていくと、いろいろなものが「吐」っていくだけけどまたマイナスなことがやってくるとまた愚痴を吐いちゃうんですね。「辛」いんですよ。そうは言っても敬太のことを思い出しますし、毎日辛い部分があります。でも、辛い中にもほんのちょっとだけ良いことを+ (プラス)してやると何が起きるかという、辛い中にも「幸」せってありますよ。幸せってほんのちょっとした気付き。このコロナの中でも、当たり前学校へ行って授業ができる喜びを改めて感じました。子ども達が学校に来る楽しさも、いろいろなことをほんのちょっとした苦しいこと、悲しいことの中にも良いことがあれば幸せって、いろいろどころにあるんだな。だけどちょっとしたことで、辛いこと、不幸せってことにもなってしまうんだな。

私は常々、今日もそうなんですけど、長いことずっとこの国に生まれて、この日本語というのを使ってきました。小さな時から「あいうえお」「かきくけこ」を習ってきました。五

十音の最初は何かという「あい」なんですよ。我々は愛をもらって、両親の愛をもらって、愛情をもらってきました。そして、私は50年生きてきました。あと何年生きるか分かりませんが、人生今100年時代だと言われてますけれども、日本語の最後は何かというと、「をん」なので、愛(あい)で始まり、恩(をん)で終わるんだよ。これは実はゴルゴ松本さんが書いた本なんですけど、読んであ〜と思ったんですけど、私も目から鱗だったんですよ。彼が何を言っているって、これだけ愛情をもらって世の中に生まれてきました。そしたら自分は恩を返していきましょう。恩を返すって何かというと地位や名誉やお金、当然、生活に必要なお金はありますけれども、日々今日という日に感謝すること。「ありがとう」「ごめんさい」ちゃんと周りの人、妻や友人、ちゃんと解ってくれているであろうじゃなくて、ちゃんと言葉に出して、感謝の気持ちを伝える。謝罪を言う。ちゃんとそういうことの日々の積み重ねが「恩を返す」ということなんじゃないんですか、というのを読んだ時にハッと目から鱗でした。私はそれを常に心掛けていきたいと思っています。

そして今日も朝起きて「おはよう」、出掛ける時に必ず「行ってきます」と家族全員に声を掛けます。そして帰った時は「ただいま」。居間にいる、奥にいる母親にも聞こえるように「ただいま」って言います。何故か。もしかしたらその言葉が最後になるかもしれない。笑顔で送り出して、笑顔で戻ってくる。そんな当たり前の毎日が幸せなんだなということをつくづく感じています。

話がいろいろなところにあちこちいって、大変長い時間、本当にご清聴いただきまして、ありがとうございました。コロナ第3波で大変な時期ですけども、皆様にはこれから寒くなりますけれども、お体にはご自愛いただきまして、本日の講演終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。



「島田市犯罪被害者等支援条例」制定



島田市犯罪被害者等支援条例の制定について ～誰もが安心して暮らせるまちづくり～

島田市長 染谷 絹代

島田市は、令和2年8月1日に「島田市犯罪被害者等支援条例」を施行しました。条例に特化した新たな施策として、犯罪被害者等のニーズに応じた支援を行うための総合的な相談窓口や見舞金の支給制度を設けました。また犯罪による直接的な被害を受けた後の精神的な苦痛や心身の不調、プライバシーの侵害等による二次的被害の発生防止への配慮が重要であるため、市民等の犯罪被害者等支援への理解が深まるよう広報啓発に取り組んでいるところです。

このたびの条例施行にあたり、島田警察署及び静岡犯罪被害者支援センターと連携協力に関する協定を締結いたしました。被害を受けた方や御家族の負担が少しでも軽減され、一日も早く平穏な生活を営むことができるよう関係機関等との連絡を密にし、きめ細やかな途切れることのない支援の実施に努めてまいります。

また本市では、平成23年に「島田市防犯まちづくり条例」を制定し、地域一体となって防犯対策を推進しております。市内の刑法犯認知件数は年々減少しておりますが、犯罪はいつでもどこで起こるかわかりません。地域性に関わらず、誰もが犯罪被害者等になり得る立場にあることを意識し、防犯対策とともに犯罪被害者等支援施策の推進に努め、全ての皆様が安心して暮らせる社会の実現を目指してまいります。

☆ 寄付型自動販売機新規設置 ☆

セキスイハイム東海株式会社静岡支社 様

寄付型自動販売機がこのほど、静岡市駿河区のセキスイハイム東海株式会社静岡支社に設置されました。

セキスイハイム東海株式会社様は、平成22年から支社やグループ会社に「犯罪被害者支援募金箱」を設置し、被害者支援活動をサポートしてくださっています。今回は静岡支社の建物外側にある既存の自動販売機1台を寄付型に変更していただきました。

【ご報告】

令和2年中は、5社のドリンクメーカーにご協力いただき、県内に32台（12月末現在28台）設置したところ、

454,635円

を寄付金として頂戴いたしました。

新規設置や既存の自動販売機を寄付型に交換することも可能です。詳細につきましては、支援センター事務局（TEL.054-651-1021）へお問い合わせください。



「熱海・あたたか学生服・代理人支援協定」締結

～被害者の方をあたたかく包んでいく街に～

熱海警察署長 本間 章浩

令和2年12月、熱海商工会議所、熱海温泉ホテル旅館協同組合及び一般社団法人熱海市観光協会の皆様のご支援、ご協力の下、「熱海・あたたか学生服・代理人支援協定」が締結されました。この協定は、平成29年の「熱海・あたたか支援米協定」に次ぐ第2弾となり、民間の経済3団体の皆様が、犯罪被害者の方々が置かれている理不尽な実態に悲憤し、「まずは一歩を踏み出そうじゃないか」と強気に押し進めていただいた支援になります。

本協定では、性犯罪等被害者の方に対し、お見舞金や学生服等が汚損した場合の新たな学生服等の支給、加害者側弁護士からの交渉等に対して、その窓口となるための被害者代理人弁護士委任費用の一部補助という3本の柱が内容です。協定の対象となる事件が発生しないことが一番の望みですが、もしもの時には性犯罪等被害者の方々の精神的、経済的被害の回復に少しでもお役立ちになれるものと信じております。

この協定が今後、性犯罪等被害者の方が前に一歩を踏み出そうとするときの、その足を優しく包みこむ「靴」になり、こうした支援の輪が全国に拡充され、被害者支援の大きな一歩となることを心から願っております。



charibon ホンデリング ～本でひろがる支援の輪～

令和2年1月～11月の寄付額

203,098円

令和2年はコロナ禍の影響で、古本等の査定を担当する㈱バリューブックスが電話での受付を停止し、Webでの申込みのみの対応となってしまったことから、前年に比べ寄付が減少してまいりました。

当面の間、Webのみの手続きとなりますので、ご理解いただきますとともに、引き続きご協力をお願いします。



未使用のテレホンカード 寄付のお願い

未使用のテレホンカードをお持ちの方はいらっしゃいませんか？

未使用のテレホンカードは、電話料金の内、ダイヤル通話料の支払いに充てることができます。

被害者やご遺族と電話連絡する機会が多いことから、通話代を補填していただくと助かります。

不要なテレホンカードがございましたら、支援センターへご連絡ください。

